

進捗状況の概要（1ページ以内）

1. 学内の実施体制

教育・学生担当理事のもと、基盤教育センターの教員と各学部の教務委員によって組織されている「教育改革推進室」で本事業を推進している。その結果、各学部の教員や全学の教務委員会、教育企画会議と連携を取りながら事業を進めることができた。個別のタスクに関しては、学部を横断したワーキンググループを設置して検討が行われた。この会議は、定期的に月に1度開催し、検討事項の審議及び各ワーキンググループの進捗状況の報告が行われ、常時 PDCA サイクルに基づき事業の進捗状況の確認と改善・実施を行った。また、年度末には1年間の事業状況を点検し、次年度計画への反映を明確にした。また、基盤教育センターのプロジェクト担当教員が中心となりキャリア教育・就職支援センター、地域連携教育研究センターと連携しながら、初年次教育改革やアクティブ・ラーニング科目の必修化等も推進した。

2. 中心となる取組

①個々の授業科目を越えた大学教育のカリキュラム・マネジメントの確立および学修到達度可視化システムの開発

9つの汎用的能力を本学が育成する「行動的知性」として整理し、その到達度を可視化する「3C到達度チェックシート」の整備を進めてきた。平成29年度は各授業で育成される能力を9つの中から選択する作業を全教員に依頼し、集計結果を分析することによりカリキュラムバランスをチェックした。それを踏まえて学修到達度可視化システムの運用を開始し、平成29年度入学生から成績通知書に、成績通知表、達成目標確認シート、3C到達度チェックシートを記載して配布し、学生の個別指導を強化することとした。

②アクティブ・ラーニングの深化と拡充およびFDの推進による教員集団の一層の教授能力・資質の向上

全学的に、FD活動でのアクティブ・ラーニング指導法の研修や、アクティブ・ラーニングのTips集をウェブ上で公開することなどに取り組んだ。また、教員向けのニュースレターにティップス集について掲載するなど広報活動を行いアクティブ・ラーニングの普及を進めた。なお、アクティブ・ラーニングを主なテーマにした教員研修プログラムとしては、教員、職員、学生の3者でそれぞれの視点から話し合うワークショップを5回開催した。

3. 取組の成果

①2-①の取組による成果は、出席状況、単位の修得状況、成績に加え、学生が各科目の学修到達度と行動的知性の修得状況を合わせて確認できることになり、担任教員がより効果的に個別指導を行えるようになったことである。

②2-②の取組による成果は、平成30年度開講予定の授業科目の99.2%がアクティブ・ラーニング要素を持つ授業となったことで、学生により一層能動的な学修が求められるようになったことである。また、教職学の3者間にアクティブ・ラーニング実践に向けた共通認識が形成されたことである。

4. 補助期間終了後の継続発展に向けた取組

補助期間終了後の継続発展に向けた取組として、学長のリーダーシップの下、新たに「大学教育推進機構」を平成30年4月に設置することとして学内体制の整備を進めた。本機構は本学の教育活動を担う諸部門と全学委員会の再編とともに、新たな任務（教育プログラムの検証及び学生の学修成果や教育活動の点検・評価、ニーズ調査、FD活動の企画・実施等）を担う部門を加えて設置するものであり、今後はこの機構を中心として本事業を継続的かつ安定的に推進していく予定である。

5. 学内外への波及効果等

学内外への波及を促す機会として、本事業の取組や成果を報告する中間シンポジウムを開催した。また、平成29年度国立大学教養教育実施組織会議においては事例報告を行った。全学の教員を巻き込みながら学修到達度可視化システムを普及してきた取組や、ピアサポーターの養成を通じて学生の主体性を高めようとする取組等について学内外に広く発信することができた。